

企画セッション

◆ 中国の知的財産戦略と今後の発展予測、日本企業の対応 ◆

【セッションの内容】

〈パネリスト〉

黄 賢涛 北京大学知識産権学院 院長アシスタント&研究員

張 立岩 中科専利法律事務所 副総経理、日本支社経理 パートナー、弁理士

小池 清仁 JETRO 北京センター 知的財産権部 元顧問

村川 一雄 NTT 東日本技術協力センタ 担当部長、工学博士

(司会) 小川 公人 株式会社プロパティ 代表取締役

(通訳) 李 テイ 株式会社プロパティ 国際技術支援部 課長

〈内容〉

- ・第1部 中国の国家知的財産戦略の要旨～黄賢涛先生による45分程度の講演

WTOへの加盟からこれまでの中国の知的財産分野の発展経緯について、「自主创新」、「国家知的財産権戦略綱領」などの重要項目を整理しつつ、国内の産業財産権の出願が世界トップになるまでの中国の国内体制の発展経緯と、中国の諸外国に対しての戦略構造についての関係性などについてプレゼンテーションを行って頂く。(中国の国家戦略は、これまで日本をお手本とし、米国の関税法337条などに対抗するような対外戦略を取ってきたが、日本では模倣対策などの後進国的なイメージが強く、客観的な分析ができてなかったと思われる。中国の先進性や後進性を、まずは、国家戦略を間近に知る黄先生に解説して頂き、見識のある各界の専門家の方の声を集約して、今後の中国、日本企業の対応について模索したい)

- ・第2部 討論会

(中国におけるこれまでの知的財産分野での問題、その経過)

知的財産分野の日中間の相違点、共通点

中国で生じた知的財産の諸問題

これらの問題は、改善傾向にあるのか

(中国の最近の知的財産分野の状況～中国は特許大国になりうるのか)

出願の量の視点から

出願の質の視点から

注目される知的財産訴訟に関する懸念と対応

(日本と中国の知的財産分野における今後の協調関係を模索する)

出願などの実務面での協調

知的財産の交易、技術移転

人材教育と知的財産分野人材の交流

企画セッション

◆ 中国の知的財産戦略と今後の発展予測、日本企業の対応 ◆

【略歴】

(パネリスト)

黄 賢涛 北京大学法科大学院、知的財産研究所卒を卒業後、2006 年中国大手電気メーカーのハイアール（海尔）社にて知財部の創設に携わる。2008 年中国工業和信息化部(国務省)を経て2009 北京大学知識産権学院に勤務し、現在に至る。2010 年には、最高情報責任者の国家知識産権局の最優秀賞を受賞し、2012 年には、国家から「特許情報をリードする人」の称号を獲得した。

張 立岩 中国ハルビン科技大学精密計器学科、1992 年日本神戸大学大学院計測工学研究科を修了、工学修士号を取得後、オムロン株式会社中央研究所で光電センサーの研究開発に従事。1996 年中科専利法律事務所に入所後、日本事務所の代表及び上海支社の法人代表と成り現在に至る。

小池 清仁 セイコーエプソン株式会社にて、人事部、生産本部、知的財産本部等に所属。香港で戦略商品企画部 副本部長として知財権/ 市場戦略/ 技術戦略融合ビジネス企画推進を担当した後、JETRO 北京センターにて知識産権部顧問を勤める。

村川 一雄 熊本大学工学部大学院電子工学研究科を卒業後、1986 年 NTT に入社。同社では、通信 EMC の研究開発に従事した後、知的財産センタ企画部担当部長を経て、2006 年には国際室北京事務所（研究技術中国展開担当）担当部長として活躍。2008 年に NTT 東日本技術協力センタの担当部長を勤め、現在に至る。

(司会)

小川 公人 株式会社サンエム(特許調査会社)の取締役を経て、1996 年に株式会社プロパティを設立、2004 年頃から中国に進出し、2010 年に現地法人本質有限公司を設立、今日に至る。自身は、翻訳業務の他、特許庁、民間企業からの委託による技術調査の実務を経験し、最近では、東洋大学の非常勤講師などを勤める。